

# 旭山〜大雪連峰と 旭川の接点

ぷくぷく

発行元 (有) 北海道新聞 下村販売所

旭川市東旭川北1条5丁目9番8号

ホームページ <http://www.doshin-pukupuku.com/>

お問い合わせ・お申込みは…フリーダイヤル ☎ 0120-233746



旭山シリーズ 78

H27.11. 7

「実りの秋」・・・何があろうと今年も淡々と生きています・・・!

その魅力と癒しの空間、歴史を探るシリーズ 78

豊穡の秋・・・と云いたいところですが、昨年のドングリやコクワに代表されるように山の幸があまりにも豊作であったため、今年はその反動でしょうか、探してもなかなか見つからない状況です。しかし、種の保存の法則に従って山野草達は確実に命を繋ぐ本能で、未来を見据え子孫繁栄の仕事を果たしています。少子化とか人口減少で困惑している私達が、生きている自分の今の幸福のみを求めているとしたら、あまりにも身勝手すぎますよ・・・と云っているように思うのですが・・・?人間も自然の生き物である事を忘れてしまっているのではないのでしょうか。



## アケビ (ミツバアケビ=アケビ科)

道南に自生していると言われているこの実、じつは旭山にも育っているのです。舟橋さんの話によると道北には無い植物で、どうも旭山野草園を作った時に植栽したのではないかとのことです。皆さんご存知のように、美しい紫色の皮に包まれ、割れた間からゼリー状の果実が黒い種を抱えるように納まっています。食糧難の時代、デンプン粉にお湯を注いで食べた「カタクリ・・・?」を甘くしたような感じです。種が多いのが難点ですが、子孫繁栄のための種ですから、お裾分けを戴くだけで、贅沢は言えません。この写真は、地域の方が食べ方と料理を添えて届けて下さった見事なアケビです。

## キウルシ (ヤマウルシ=ウルシ科)

放射状に伸びた枝が紅葉した時のあの美しさは、何物にもたとえられない程美しいものです。黄色からオレンジ、そして深紅と、霜の強さに応じて衣替えさせていくのです。その美しさから比べて、この種子の地味な色合いは、又何と云うことでしょうか。垂れ下がった紐に玄米の粒が付いている様な目立たない色合で、直径5〜8ミリの粒が無数に下がっています。調べるには「かぶれる」と言われているので躊躇しています。子孫のために、生き物が近づかない様細工をしたのでしょうか。



## エゾノコリンゴ (サンナシ=バラ科)

子供の頃、山でこの実を見つけると口に含んで、硬かったら吐き出し柔らかかったら食べたものです。霜が降りてからが美味しいのです。今三浦庭園の見晴台から山頂に向かった辺り一面、20本以上のこの木が密生しています。あまり知られていないのですが、白とピンクの花は見事に咲き誇っています。おそらく種子が運搬されて増えたのだと思います。冬に行くと、この木の周辺が動物の足跡だらけであり、小鳥の糞が雪上に落ちています。小鳥がドライフルーツになった実を食べ、そこを狙って動物達が寄ってくる、その力を借りてエゾノコリンゴは子孫を増やす・・・自然を巧みに使った智慧です。

## フッキソウ (キチジソウ=ツゲ科)

常緑の小低木は、垣根などに使用されるのですが、富貴草の和名どおり繁殖が盛んなことによるのです。旭山の樹下に群生していますが、実がなっているのを見た人は、案外少ないと思います。まして、その実を食べたとすると、ギネスものでしょうか? 日本を代表する「真珠」を思わせる乳白色の粒、形も色合いも真珠そっくりです。触るとホニャとした感触で、マシュマロの様です。登山をした時仲間に教えられた「疲労回復剤」がこの実です。しとっと甘くてブドウに似た味、アイヌの人達も食べていました。この実、子孫を残すための「種」・・・があったのかどうか?・・・再調査です。



## 種当てクイズ

(写真の実は何の種でしょう・・・正解の方は相当の山野草好きです)



正解は次号で

## ブローチの落とし物



巡礼の道お地藏さん87番札所の辺りで大雨の後散策路に埋もれていたのを発見しました。状態からここ数年の間に落とされたものと思われます。装飾品はその人の思い出が詰まっている場合が多いので、身から離さず持っていたのではないかと考えています。旭山寺に預かって頂いています。心当たりの方、訪ねてみてください。

## 旭山を活かす市民の会 問合せ先

会の全体について(理事長)  
中川 希一 (0166-36-1827)  
事務局 長  
野村 廣巳 (0166-36-3382)  
山野草関係の情報  
石井 征士 (0166-36-6667)